千葉市感染症発生動向調査情報

2021年 第15週（4/12-4/18）の発生は？

1　定点報告対象疾患（五類感染症）

上段：患者数
下段：定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

報告のあった定点数	15週	14週	13週	12週
小児科	17	17	17	17
眼科	5	5	5	5
ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ	27	27	27	27
基幹定点	1	1	1	1

定点	感染症名	千葉市 注意報	4/12-4/18 15週	4/5-4/11 14週	3/29-4/4 13週	3/22-3/28 12週	千葉県 4/5-4/11 14週
小児科	RSウイルス感染症	○	4 0.24	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.01
	咽頭結膜熱		1 0.06	0 0.00	1 0.06	2 0.12	5 0.04
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		5 0.29	13 0.76	2 0.12	9 0.53	65 0.49
	感染性胃腸炎		34 2.00	16 0.94	29 1.71	44 2.59	195 1.46
	水痘		2 0.12	6 0.35	2 0.12	2 0.12	27 0.20
	手足口病		1 0.06	0 0.00	0 0.00	1 0.06	0 0.00
	伝染性紅斑		2 0.12	0 0.00	1 0.06	0 0.00	4 0.03
	突発性発しん		11 0.65	16 0.94	7 0.41	6 0.35	59 0.44
	ヘルパンギーナ		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.01
	流行性耳下腺炎	○	4 0.24	0 0.00	0 0.00	0 0.00	6 0.04
インフル	ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ（高病原性鳥ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞを除く）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		1 0.20	1 0.20	1 0.20	0 0.00	8 0.24
基幹定点	細菌性髄膜炎 （髄膜炎菌性髄膜炎を除く）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	クラミジア肺炎 （オウム病を除く）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 （ロタウイルスに限る）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★：流行中　★：やや流行中　◎：増加　○：やや増加　→：変化なし　↓：やや減少　↓↓：減少

2　全数報告対象疾患（219件）　※新型コロナウイルス感染症215件は数のみ

病名	性	年齢層	診断（検査）方法	病名	性	年齢層	診断（検査）方法
結核	男性	20歳代	病原体遺伝子の検出	梅毒	男性	70歳代	血清抗体の検出
急性脳炎	女性	10歳未満	高熱、中枢神経症状等	新型コロナウイルス感染症	男女	0歳代～90歳代	病原体遺伝子の検出等
侵襲性肺炎球菌感染症	女性	10歳未満	病原体の分離・同定	－	－	－	－

・第15週は、　結核1件（44）、急性脳炎1件（2）、侵襲性肺炎球菌感染症1件（5）、梅毒1件（15）、新型コロナウイルス感染症215件（3693）の発生届があった。

※　（）内は2021年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数　第15週のコメント

＜RSウイルス感染症＞2021年で初めて発生が報告された。過去10年の同時期と比べると多い。
＜流行性耳下腺炎＞前週より増加し、過去10年の同時期と比べるとほぼ平均レベルとなった。

■ トピック ■

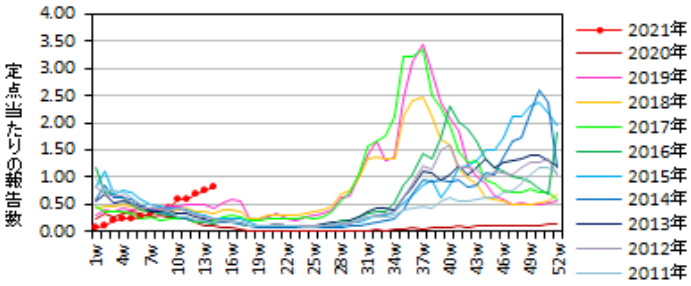
＜RSウイルス感染症＞

全国の発生動向は、年頭から例年とは逆の動きとなり増加し続け、第10週で過去10年の同時期と比べ最多となり、その後も増加を続けており、第14週時点も同様に最多となっています。都道府県別では主として九州地方で多く、宮崎県、佐賀県、福岡県の順に多く報告されています。千葉県は0.01で全国レベルと比べると少なくなっています。

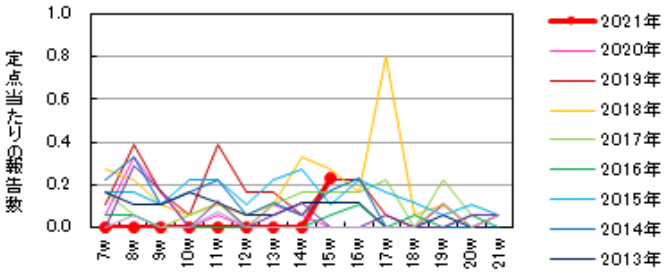
千葉市では年頭から発生報告がありませんでしたが、第15週に初めて報告があり0.24となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。現在は主として九州地方で流行していますが、例年とは違う動きをしていることから今後の動向に注意が必要です。区別の発生状況は、緑区（1.0）のみで計4件の発生報告があり、男女共に同数で、年齢階級別では1歳及び2歳（共に50.0%：2件）となっています。

RSウイルス感染症は、RSウイルス（respiratory syncytial virus）の感染による呼吸器の感染症です。RSウイルスは日本を含め世界中に分布しています。何度も感染と発病を繰り返しますが、生後1歳までに半数以上が、2歳までにほぼ100%の児がRSウイルスに少なくとも1度は感染するとされています。症状としては、軽い風邪様の症状から重い肺炎まで様々ですが、初めて感染発症した場合は重くなりやすいといわれており、乳期、特に乳児期早期（生後数週間～数カ月間）にRSウイルスに初感染した場合は、細気管支炎、肺炎といった重篤な症状を引き起こすことがあります。そのため、特に乳児期早期のお子さんがいる場合には、感染を避けるための注意が必要です。

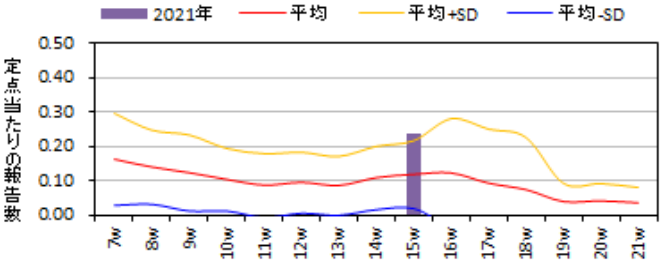
感染経路は飛沫感染と接触感染です。発症の中心は0歳児と1歳児です。咳等の呼吸器症状がある年長児や成人は、可能な限り0歳児と1歳児との接触を避けることが重要です。また、咳などの呼吸器症状がある場合は飛沫感染対策としてマスクを着用して接することが大切です。接触感染対策としては、子どもたちが日常的に触れるおもちゃ、手すりなどはこまめにアルコールや塩素系の消毒剤等で消毒し、流水・石鹸による手洗いか又はアルコール製剤による手指衛生の励行を行います。



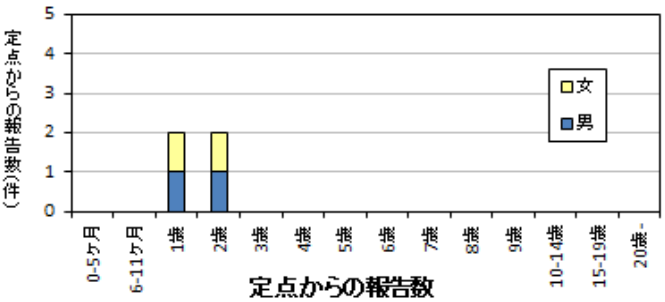
各年の定点当たりの報告数
（全国：2011年-2021年）



各年の定点当たりの報告数
（千葉市：2011-2021年 7w-21w）



過去10年間との比較
（千葉市：2021年7w-21w）

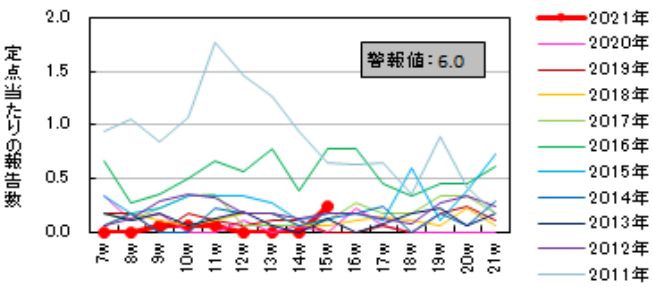


定点からの報告数
（千葉市：2021年1w-15w n=4）

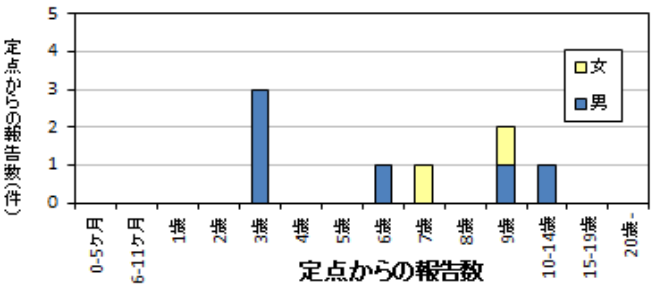
＜流行性耳下腺炎＞

全国の第14週時点は0.04で、過去10年の同時期と比べると少なくなっています。 都道府県別では、新潟県、宮城県の順に多く報告されています。千葉県は0.04で全国レベルと同等となっています。

千葉市の第15週は前週より増加し0.24となり、過去10年の同時期と比べると平均レベルとなっています。区別の発生状況は、花見川区と稲毛区（共に1.0）で報告があり、花見川区では7歳の発生、稲毛区では3歳で多く発生報告がありました。2021年第1週から第15週までの累積報告数は8件で、男性が75.0%（6件）、女性が25.0%（2件）で、年齢階級別では3歳（37.5%：3件）、9歳（25.0%：2件）の順で多くなっています。



各年の定点当たりの報告数
（千葉市：2011-2021年 7w-21w）



定点からの報告数
（千葉市：2021年1w-15w n=8）